

2011年1月20日／浪宏友ビジネス縁起観塾

法華経とはどういう經典か

資料：庭野日敬著『法華三部経 各品のあらましと要点』（佼成出版社）「はじめに」

1. 仏知見

- (1) 法華経には、四仏知見と呼ばれる教えが説かれています。仏知見とは、仏の智慧のことです。
- (2) 四仏知見
 - ・ 仏知見を開かせる : 仏の智慧に目を開かせる
 - ・ 仏知見を示す : 仏の智慧の実際を示す
 - ・ 仏知見を悟らせる : 仏の智慧を体験によって悟らせる
 - ・ 仏知見の道に入らせる : 仏の智慧を成就する道に導き入れる
- (3) 四仏知見は、「あらゆる人を、仏の智慧に導き入れたい」という仏の願いを表したものです。釈迦牟尼世尊が世に出られたのは、この願いのためです。
- (4) 庭野日敬師は、「この仏の智慧をすべての人びとに知っていただくお手伝いをするところこそ、『世のため人のために』生きることであり、私の人生はそのために授かったものだとはっきり自覚できたのでした。」と語っています。師は、実際、その通りの人生を歩んだと私には見えます。

2. 正法・像法・末法

(1) 仏滅後の時代区分

正法＝仏の教えが正しく守られる時代

像法＝仏法が形のうえだけのものになってしまう時代

末法＝ついに仏法が見失われてしまう時代

(2) 「正法・像法・末法」の意味するもの

仏法とは、人間として生きる道を説いた教えです。

その観点から見直せば、正法・像法・末法の考え方は、歴史的な時代区分としてではなくて、個々人のありかたとして捉えた方が適切であると思います。

- ・ 正法＝人間として生きる道を知り、その通りに身の振る舞い・言葉の振る舞い・心の振る舞いをしている。
- ・ 像法＝人間として生きる道を一応知っているけれども、身の振る舞い・言葉の振る舞い・心の振る舞いが伴わず、結局自分本位に生きてしまう。
- ・ 末法＝人間として生きる道を見失っているか、忘れてしまっているか、最初から知らない。ひたすら、自分本位に考え、語り、行動している。

(3) 現代のすがた

末法状態の人びとは、貪欲・瞋恚・愚痴にあふれた生き方をします。このような人びとで渦巻く世界を、汚濁の世界ということがあります。

現代に生きる人々の圧倒的多数が、末法状態であると思われます。それゆえ現代を、「末法の世である」、「汚濁の世界である」というのも、うなずけるものがあります。

3. 真の人間の生き方

(1) 真の人間の生き方、法華經に示された菩薩の生き方とは、仏知見の道に入った生き方です。

(2) 法華經に示された菩薩の生き方

① 法華經には、数多くの菩薩が登場します。

② これらの菩薩は、それぞれ個性的ですが、根本的な意味では、共通する生き方をしています。

「根本的な意味で共通している生き方」が、真の人間の生き方です。

③ 菩薩の生き方は、「上求菩提、下化衆生」、「自行化他」、「忘己利他」などと表現されています。

④ 法華經に示された菩薩は、汚濁の世界で、真の人間の生き方を貫いている菩薩です。

(3) テキストの169ページに、「それが、ほんとうの人間らしい生き方であり……」とあります。

あらゆる菩薩に共通する生き方は、ここに源泉を持っています。

私たちは、ここに向けて、学習を続けていきたいと思えます。

4. 経営

- (1) 仏教でいう「経営」とは、“規模を定めて、物事を営むこと。目標を定め、力を尽くして励むこと。”です。（仏教語大辞典）
- (2) 「規模」とは、“内容、構造、仕組みなどの大きさや複雑さ”のことです。（国語中辞典）
- (3) 法師功德品（テキスト187頁）に、次の経文があります。

【経文】

若し俗間の経書・治世の語言・資生の業等を説かんも、皆正法に順ぜん。

【現代語訳】

もしその人が、日常生活についての教えや、世を治めるための言論や、産業についての指導を行っても、それはおのずから正法に合致するものでありましょう。

- (4) 経営・ビジネスは、仏知見（仏の智慧）によって行なうことが望まれます。
- (5) 経営・ビジネスのありかたを、仏知見で説き明かそうとする試みが、「ビジネス縁起観」です。

5. 汚濁の世界における経営・ビジネス

- (1) 「経営・ビジネスの世界は、汚濁の世界だから、仏の教えなど入り込む隙間など無い。」と考え、そのように語る人がいますが、その人は、仏の教えを本気で学んだこともなければ、本気で実践したこともない人でありましょう。
- (2) 方便品に「諸仏は五濁の悪世に出でたもう」とあります。
経営・ビジネスの世界は、汚濁の世界だからこそ、仏は教えを伝えたいのです。
- (3) まず自分自身が、汚濁の中でも正しく生きる智慧と実行力を身につけることです。これによって、正しい経営、正しいビジネスが実現できます。
同時に、自分につながりのある人びとに仏の教えを伝えて、汚濁の中でも、正しく生きる智慧と実行力を身につけてもらうように支援します。
- (4) 仏知見の道に入れば、この難しい課題に取り組み、成果を上げることができるようになります。

【参考】 釈迦牟尼世尊の生涯

誕生	西紀前463年	
出家	29歳	19歳
修行	6年間	11年間
成道	35歳	30歳
教化活動	45年間	50年間
入滅	西紀前383年（80歳）	

釈迦牟尼世尊の出家・成道の年齢には諸説ある。
この二つが、代表的な説である。

誕生、入滅の年代は、
宇井伯寿博士の研究を基に、中村元博士が考えたもの。

【参考】 庭野日敬師の生涯（立正佼成会のホームページから）

誕生（新潟県中魚沼郡十日町字菅沼）	明治39年（1906）
上京	16歳
新井助信師に出会い法華経を学ぶ	
立正佼成会創立、会長となる	昭和13年（1938）
布教活動	
庭野日鏡師に会長位を委譲	平成3年（1991）
入寂	平成11年（1999）

【参考】法華経における代表的な菩薩

1. 菩薩

- (1) 仏の境地を求めて修行する人。
- (2) 自分は仏の悟りを求め、人に向かっては苦しみから救い、仏の悟りを悟らせる努力をする人。
- (3) 菩薩戒
 - ・止悪＝悪をとどめる
 - ・修善＝善を修める
 - ・利他＝人びとのために尽くす

2. 法華経の成り立ちを象徴する菩薩

妙法蓮華経は、「智慧」と「慈悲」と「実行」が揃っている教えである。

それ故、智慧を説くところでは「文殊師利菩薩」、慈悲を説くところでは「弥勒菩薩」、実行を説くところでは「普賢菩薩」が活躍する。

文殊師利法王子	もんじゅしりほうおうじ	序品、提婆達多品、安樂行品、妙音菩薩品	仏の智慧を象徴する菩薩
弥勒菩薩	みろくぼさつ	序品、從地涌出品、分別功德品、隨喜功德品	仏の慈悲を象徴する菩薩
普賢菩薩	ふげんぼさつ	普賢菩薩勸発品、仏説観普賢菩薩行法経	法の実行を象徴する菩薩

3. 独立した品を持つ菩薩

妙法蓮華経には、菩薩の名前が表題となっている章（品）がある。それぞれ、個性的な菩薩が登場する。

常不軽菩薩	じょうふきょうぼさつ	常不軽菩薩品	礼拝行によってあらゆる人の仏性を拝みだす一僧侶。 釈迦牟尼世尊の前身とされる。
薬王菩薩	やくおうぼさつ	薬王菩薩本事品	身をもって教えを実践し仏恩に報じた菩薩。 前身は「一切衆生喜見菩薩（いっさいしゅじょうきけんぼさつ）」 薬王菩薩は、良薬を与え、衆生の身心の病苦を除く菩薩とされている。
		勸持品、陀羅尼品、妙莊嚴王本事品にも登場する	
妙音菩薩	みょうおんぼさつ	妙音菩薩品	現実の世界で理想を現実化しようとする努力を讃えている。 妙音菩薩は理想の象徴。
観世音菩薩	かんぜおんぼさつ	観世音菩薩普門品	観世音菩薩は、世間における真実の智慧を象徴する菩薩。 観世音菩薩は我々が手本とすべき人間像であるといわれる。 また、リーダーの手本であると言われる。

4. 従地涌出品に現れる本化地涌の菩薩。人間として持つべき誓願を象徴している

上行菩薩	じょうぎょうぼさつ	仏の道は無上であろうとも、かならず到達しようと誓願する
無辺行菩薩	むへんぎょうぼさつ	仏の教えは無尽であろうとも、かならず学び尽くそうと誓願する
浄行菩薩	じょうぎょうぼさつ	煩惱の数は無数であろうとも、かならずすべてを断ち切ろうと誓願する
安立行菩薩	あんりゅうぎょうぼさつ	衆生の数は無辺であろうとも、かならず一切を救おうと誓願する

5. 折々に現れる菩薩

妙法蓮華経には、数多くの菩薩が登場する。

常精進菩薩	じょうしょうじんぼさつ	妙法蓮華経法師功德品で、釈迦牟尼世尊から語りかけられる。
宿王華菩薩	しゅくおうげぼさつ	薬王菩薩本事品で、釈迦牟尼世尊に、薬王菩薩のことを質問する。
華徳菩薩	けとくぼさつ	妙音菩薩品で、妙音菩薩について釈迦牟尼世尊に質問する。 妙莊嚴王本事品で、妙莊嚴王が修行して華徳菩薩になったとある。
無尽意菩薩	むじんにぼさつ	観世音菩薩普門品で、観世音菩薩に、宝珠を布施する。
持地菩薩	ぢちぼさつ	観世音菩薩普門品で、観世音菩薩を讃える。地藏菩薩の別名。
勇施菩薩	ゆうぜぼさつ	陀羅尼品で、陀羅尼を説く。

このほかにも、多くの菩薩の名前がある。無量義経にも、多くの菩薩の名前が出てくる。

6. これらの菩薩は、経文の中に現れるだけで、歴史的に実在したという形跡は見られません。